



だっこするよ

令和2年7月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115-0053 北区赤羽台1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子

ウィズコロナの生活を一緒に乗り越えていきましょう

梅雨の街に紫陽花が咲き誇っています。赤羽自然観察公園の利用が再開されて、ザリガニ、カニ、バッタにダンゴ虫、カタツムリと…沢山の同居者が増えています。また、手塩にかけて育てた見事なカブトムシを沢山保護者からいただきました。みんな目を輝かせてその命の美しさに触れています。園庭ではヒマワリやゴーヤがぐんぐん生長しています。

今年は、新型コロナウイルス感染防止のためにプール活動を中止としました。やはり水中でのリスクを考えて判断しました。水遊びは熱中症防止を図りながら行います。春からの懇談会も保育参観、保育参加、夏祭り等保護者参加の行事は全て中止とし、大変心苦しいです。ただ、いつもの夏を楽しんで欲しいと年長児中心に盆踊りやお神輿担ぎなど夏祭りごっこを行う予定です。行事の見直しや新しい生活様式を取り入れ保育を行ってはいますが、どうしても三密になります。保育園は100%集団感染を防げる場ではありません。朝夕200名近くの保護者、業者、職員が出入りして、クラスターにならないとは言えません。現実です。どうかお子さんの命を守る判断はご家庭で選択してください。その点を先ずはご理解いただき、保護者と園で一緒にウィズコロナの生活を乗り越えていきましょう。引き続き緊張感をもって保育を行って参ります。保育士は日常を面白くするプロです。コロナ禍であっても楽しい生活を送りたいですね。

さて、年長組で「議論しよう」を続けています。主体的で対話的で深い学びの場です。初めは「コロナウイルスって何?」「罹るとどうなるの?」と問いを投げかけると出るわ出るわ…「アメリカで死んだ人が多い」「入院するとママと会えなくなる」などなど、「罹らないためにはどうする?」と尋ねると「手洗いや顔洗いをする」「順番を守る」「みんなが触るところはよく消毒する」「公園では遊具を触らないように鬼ごっこをする」など子どもからの目線で話し合い、クラスの新しいルールを作りました。そして先日は、もうすぐ産休に入られる酒井栄養士をゲストに「命って?」を話しました。先ず「命とは?」と尋ねると「命は一人に一つしかない大切なもの」「命は守らないといけないもの」と。そして酒井さんに「赤ちゃんを授かってどんな気持ちでしたか?」の問いかけをすると酒井さんが「嬉しかった。そしてちゃんと育つのがとても心配だった。」と。「みんなも5年、6年前にママのお腹にいたんだよ。ママも同じ気持ちだったね」と話すととても静かに聞いていました。「お腹の中でちゃんとママは臍の緒でつながっているんだよ」「ご飯もそこから食べているよ」とみんなで自分のお臍を確認。「何故女の子だけ赤ちゃんが出来るの?」「虫にもオスとメスがいるよね」と話は尽きません。最後に酒井さんがお腹の中の赤ちゃんの写真を見せてくれました。3Dではっきり写っている顔写真にみんなびっくり。「笑っているみたいだね」と話していました。東京大学名誉教授汐見稔幸氏は、「議論しよう」について・できるだけ子ども同士の意見交換、議論、喜びや心配の共有を保障すること。・議論を大事にし、他者をくぐって自分の見解を作っていく習慣を身につけること。・人の意見等を深く聴くことができる力を身に付けること。と話されました。内的対話…誰かの発言をちゃんと聞こうとする、問いかけに過去の経験を結び付けて考えようとする…これって哲学のように感じました。大人が思っている以上に子どもは沢山の情報を持っていて考えて(感じて)いることに驚きます。その気持ちをちょっと整理して友だちと表現し合う時間、心の育ちへつながると思いました。「自分の命を守ることはみんなの命も守ることだね」誰かの言葉が心に残りました。6月23日は沖縄慰霊の日でした。命どう宝、平和な世界を皆で築きたいですね。写真は議論しよう「いのちって?」より